令和4年度
事務事業評価シート　　【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	08	02	02	184040	生活道路維持事業費

総合計画	分野	02　暮らし	政策	02　生活基盤の充実
	施策	01　道路環境の充実		

目的	生活道路を安全に安心して通行できるようにするため、維持修繕（舗装の打ち換え、オーバーレイ等）及び除雪を行う。
対象	道路利用者
意図	安全で快適な通行を確保する
事業概要	○市道維持管理（舗装修繕、除雪等）　1,181,921千円 ○【R3→R4繰越】市道の維持工事　115,028千円 ○【R4現年】市道の維持工事　427,001千円 ○車両・機械の購入　57,085千円
市民参画の有無	対象外

市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	当該年度の舗装修繕件数	件	計画	17.00	17.00	
			実績	45.00	45.00	
2	当該年度の補修件数	件	計画	250.00	250.00	
			実績	337.00	421.00	
3	当該年度の除雪回数	回	計画	10.00	10.00	
			実績	13.00	9.00	

	成果指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	当該年度の舗装修繕延長	m	目標	7,000.00	7,000.00	
			実績	7,394.00	8,140.00	
2	市の瑕疵による事故件数	件	目標	0.00	0.00	
			実績	1.00	10.00	
3			目標			
			実績			

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）

補修件数及び舗装修繕はおおむね目標通りの達成度であったため、今後も目標値を維持する。
市の瑕疵による事故においての示談件数は10件であり、内容は平成31年2月に舗装段差により負傷したものが1件、令和4年3月に舗装の穴によるパンクが6件、令和4年3月の倒木による屋根破損が1件、令和5年2月の橋梁アーチからの落雪による車両破損が2件である。前年度のパンク事故が多いことを重く受け止め、積極的に道路パトロールと舗装補修を行った。

目的妥当性	公共関与の妥当性		市道の維持補修は道路管理者である市が行うものであり、その唯一の事業である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		舗装などの破損箇所は道路パトロールや要望により連日発見されているが全てに対応出来ない状況である。このことから、道路パトロールによる早期発見と早期補修に努めることで成果向上に繋がる。
	○	向上余地がある	
		向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地		道路施設の劣化は進行することから、安全確保に必要な維持事業費の削減余地は無い。また、補修箇所の早期対応のため、道路パトロールや苦情処理等を迅速且つ確実に行うための直営体制強化が望まれることから、人件費の削減余地は無い。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		不特定多数が利用する市道の維持補修を行う事業であるため、受益者は公平である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価	今年度の振り返り	計画的な舗装修繕を行うため早期発注を実施したことにより目標延長を達成することができた。道路に起因する事故は10件であり目標を達成できなかったため、今後道路パトロールを強化することで維持管理していく。
	次年度に向けて	良好な道路の維持管理を継続していくために、道路パトロールの強化、補修対応、苦情処理等への迅速で確実な体制を確保していく。

令和4年度
事務事業評価シート　　【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	08	02	03	184070	生活道路整備事業費

総合計画	分野	02　暮らし	政策	02　生活基盤の充実
	施策	01　道路環境の充実		

目的	安全で快適に通行できる道路網を構築するため、各コミュニティ地区の土木施設要望に沿って、市道の道路改良、側溝整備を行う。
対象	道路利用者、市民
意図	安全で快適な通行の確保を図る
事業概要	○生活道路整備事業（繰越明許費）459,479千円 ○生活道路整備事業　858,518千円
市民参画の有無	対象外

市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	道路改良事業実施路線	路線	計画	34.00	16.00	
			実績	30.00	36.00	
2	舗装新設事業実施路線	路線	計画	5.00	0.00	
			実績	10.00	10.00	
3	側溝整備事業実施路線	路線	計画	13.00	10.00	
			実績	13.00	16.00	

	成果指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	道路改良整備（完成）延長	km	目標	4.50	1.10	
			実績	4.90	3.40	
2	舗装新設整備（完成）延長	km	目標	1.40	0.00	
			実績	2.70	3.10	
3	側溝整備（完成）延長	km	目標	1.60	1.20	
			実績	1.30	2.10	

成果指標の達成度	○	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）

地域要望において対策が必要な箇所、完成路線、事業費等を検討し、事業実施件数、整備延長を決定している。

目的妥当性	公共関与の妥当性		公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		市道の道路改良、舗装新設、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望の道路環境を満足された水準となることから、さらなる向上は難しい。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地		事業を実施する上で、計画から工事監督業務まで多岐にわたるが、現在でも効率的な事業執行に努めている。また、外部委託を行うなど人件費の削減に努めている。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、受益者負担は公平、公正である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価	今年度の振り返り	路線数が多いため、早期発注に努めるとともに可能な限り外部委託なども活用しながら効率的に業務を進めることができた。
	次年度に向けて	道路整備に対する要望が多数寄せられていることから、コスト縮減に努めながら業務を効率的に進める。

令和4年度
事務事業評価シート　　【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	08	02	03	184090	花巻スマートインターチェンジ整備事業費

総合計画	分野	02　暮らし	政策	02　生活基盤の充実
	施策	01　道路環境の充実		
目的	高速道路の利便性を向上させ、産業振興等の発展を図るため、東北縦貫自動車道花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する。			
対象	高速道路利用者			
意図	花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する			
事業概要	○花巻スマートインターチェンジ整備事業（繰越明許費）　1,205千円 ○花巻スマートインターチェンジ整備事業（事故繰越費）99,553千円 ○花巻スマートインターチェンジ整備事業　9,632千円			
市民参画の有無	無			

市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標	単位	区分	R03	R04	R05
1			計画			
			実績			
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			

	成果指標	単位	区分	R03	R04	R05
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			

成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）

地区協議会は事業の進捗状況に応じて事業者間で必要性を協議のうえ実施するため、事前に設定することが困難である。

目的妥当性	公共関与の妥当性		道路利用者の利便性、道路環境の向上、地域振興の観点で公共が関与することは妥当と認められる。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		スマートインターチェンジの整備には、ある程度の地域醸成も必要である。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地		必要最低限の経費で整備を目指している。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		道路は公共財であるため公平性は確保されている。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価	今年度の振り返り	事業者間で工程調整を行いながら円滑に事業を進めることができた。
	次年度に向けて	事業も終盤に差し掛かることから、工程や事業費の調整を綿密に行い、早期の供用開始を目指す。

令和4年度
事務事業評価シート　　【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	08	02	04	184100	橋梁維持事業費

総合計画	分野	02　暮らし	政策	02　生活基盤の充実
	施策	01　道路環境の充実		
目的	交通の安全を確保するとともに橋梁の長寿命化を図るため、花巻市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期に対策すべき橋梁を優先して修繕する。			
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁			
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。			
事業概要	○橋梁維持事業（繰越明渠費）98,461千円 ○橋梁維持事業　399,423千円			
市民参画の有無	無し			

市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	修繕橋梁数	橋	計画	3.00	6.00	
			実績	3.00	7.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			

	成果指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	修繕対象橋梁修繕率(R1～R5: 全71橋)	%	目標	28.00	36.00	
			実績	28.00	38.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			

成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）

○R2年度より修繕対象橋梁数を追加実施（R1年度の橋梁長寿命化修繕計画の見直しによる）
　耐用年数により修繕対象橋梁数が年々追加されていく状況。修繕の必要な橋梁から、修繕を随時進める。
　H30年度迄　⇒　対象橋梁26橋
　R1年度から　⇒　対象橋梁71橋
○R4年度、国費内示による4月追加補正にて修繕実施橋梁数を増やすことができた。

目的妥当性	公共関与の妥当性		・公共施設である橋梁の修繕なので妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		・前年度に橋梁修繕内容の調査設計を実施し、補修内容や予算について精度をあげている。 ・公共物の老朽化は年々進むものであり、現在の取り組みを維持し、継続的に修繕事業を進める必要があることから、更なる成果の向上は困難である。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地		・前年度に個々の橋梁修繕内容について調査設計を実施。 ・それにより適正な補修方法、内容を検討。 ・あわせてコスト縮減についても検討。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な執行に必要な最低限の事務を行っている。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益負担は公平、公正である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価	今年度の振り返り	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕をしている。 ・個々の橋梁修繕については、前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。
	次年度に向けて	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき早期対策の必要な橋梁を優先して修繕を実施する。 ・調査設計により、修繕内容の精度を上げて事業費削減に努めている。

令和4年度
事務事業評価シート　　【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	08	02	05	184160	交通安全環境整備事業費

総合計画	分野	02　暮らし	政策	02　生活基盤の充実
	施策	01　道路環境の充実		

目的	道路利用者の交通安全環境の向上を図るため、歩道の整備、歩道の段差解消等の整備を行う。
対象	道路利用者、市民
意図	安全・安心な歩行空間の確保を図る
事業概要	○交通安全環境整備事業（繰越明許費）160,769千円 ○交通安全環境整備事業　297,910千円
市民参画の有無	対象外

市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		後援・協賛		補助・助成		委託

	活動指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	当該年度歩道整備事業実施件数	件	計画	7.00	6.00	
			実績	7.00	11.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			

	成果指標	単位	区分	R03	R04	R05
1	歩道整備（完成）延長	km	目標	0.30	0.30	
			実績	0.10	0.80	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			

成果指標の達成度	○	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）

交通安全プログラムによる通学路において児童の安全歩行が必要な箇所、完成路線、事業費等を検討し、事業実施件数、歩道整備延長を決定している。

目的妥当性	公共関与の妥当性		公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	○	妥当である	
		見直し余地がある	
		妥当でない	
有効性	成果の向上余地		現況の道路敷地内で有効的に、かつ交付金事業を活用しながら歩道整備を実施しており、予算内でのさらなる向上は困難である。今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
		向上余地がある	
	○	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地		歩道段差解消は、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して節減に努めている。
		事業費の削減余地がある	
		人件費の削減余地がある	
	○	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地		市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、受益者負担は公平、公正である。
		受益機会の見直し余地がある	
		費用負担の見直し余地がある	
	○	適正である	

総合評価	今年度の振り返り	事業の効率的な推進のため、早期発注や外部委託を行い目標を上回る事業数、整備延長を達成した。
	次年度に向けて	綿密な工程管理を行い、円滑に事業を進めるよう逐次フォローアップしていく必要がある。